

# ひらくびつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '86 2月号

## 移動博物館 □□□□□□

### 豊田公民館

◆ 豊田本郷遺跡展 2月14日～16日

豊田本郷遺跡の出土遺物等を展示します。

#### ☆星を見る会

2月15日 18時～20時

▼豊田本郷遺跡



▼ 星を見る会 望遠鏡で、月や星を観察します。



### 須賀公民館

◆ 平塚の野鳥展 2月22日～23日

野鳥観察 22日14時、23日10時より

#### ☆星を見る会

2月22日 18時～20時

#### ▼ 平塚の野鳥展

写真や手製の展示と、野鳥観察をします。



### 神田公民館

#### ☆星を見る会

3月14日 18時～20時

#### ◆ 平塚の野鳥展

3月15日～16日

野鳥観察 16日10時、14時より

# 来た！ハレー彗星

## ハレー彗星を探査するⅡ

ハレー彗星はいよいよ太陽に近づき、2月9日の20時（日本時間）に約8800万kmまで接近します。その時の太陽からのふく射熱は地球上の約3倍、水星と金星のはば中間の距離ですから相当熱いはずです。

この時期は彗星核からの蒸発が最もさかんに起こり、まわりをとりけくコマの直径も何と100万kmにも達します。尾も相当にのびてくるはずです。地球からは太陽の向こう側に位置するため、残念ながら見ることができません。しかしその間は各国が打ち上げた探査機がハレー彗星を調べています。今回は前回にひき続き各国の探査機について解説します。

### 各国の探査機

#### さきがけとすいせい（日本）

日本は今回のハレー彗星探査計画の一翼を担つて、2機の探査機を打ち上げました。それが「さきがけ」（MS-T5）と「すいせい」（PLANET-A）です。

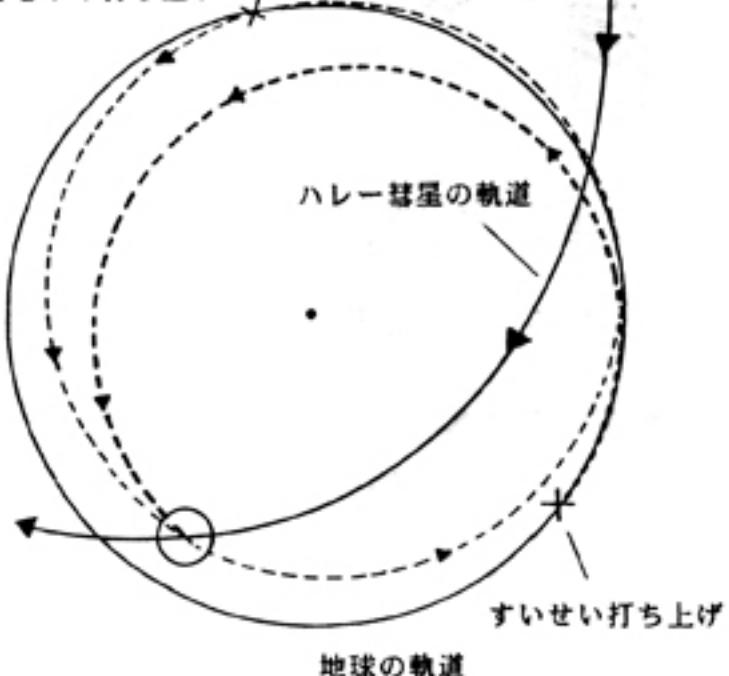
さきがけは昨年1月8日に鹿児島県内之浦町から文部省宇宙科学研究所が打ち上げました。打ち

#### すいせい（宇宙科学研究所－日本）



### 「さきがけ」と「すいせい」のコース

さきがけ打ち上げ



上げは朝まだ明けきらぬうちに、東の空に向けて打ち出されました。普通、アメリカ等で打ち上げる惑星探査機は、一度地球のまわりをまわる軌道にのせた後、ロケットをふかして地球の引力をふりきって惑星に向かいますが、さきがけは直接引力をふりきって日本初の人工惑星となりました。エネルギーの節約のためです。

さきがけの目的は人工惑星と地球間の通信法の練習が第一にあげられます。何しろハレー彗星に探査機が行きつく時、地球との距離は1億8千万kmもはなれていますから、連絡をとり合ったり信号を受けたりするのは大変難かしい問題です。第二には、ハレー彗星に接近するための軌道をまちがいなく進める方法を試験することです。第三には、ハレー彗星の尾の原因となっている太陽風の観測です。太陽風は毎秒300～400kmという高速の流れです。その正体は水素の原子核の陽子と電子を主とした粒子、プラズマの流れです。彗星はこの流れの中を進みますが、彗星の大気のコマとぶつかり、ガスの尾は太陽風に流されます。

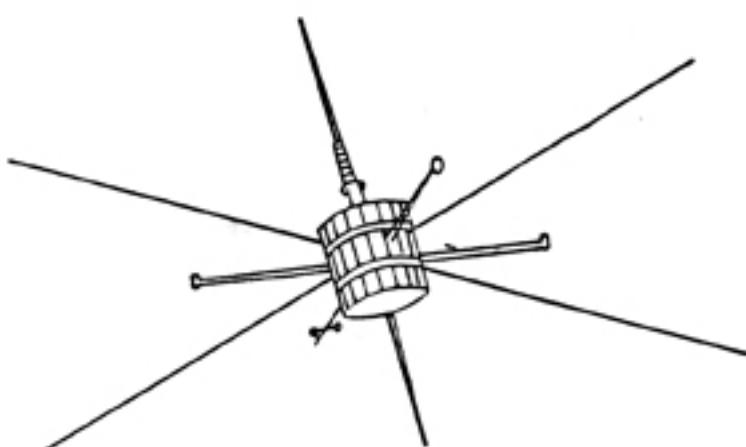
さきがけはハレー彗星の前方700万kmに近づいて彗星に吹きつける風を測るのです。風の変化が尾の変化をもたらすため、重要な観測です。

すいせいは、正式な「ハレー彗星探査機」です。大きさはさきがけとウリ二つで、直径1.4m、高さ70cm、重さ138kgです。すいせいには紫外線カメラが載せられています。これは、ハレー彗星の頭にできる巨大な水素雲を、水素が出る紫外線によって観測しようというものです。彗星のコマ内で核から蒸発した水などの分子が太陽からの強い紫外線によって分解されて、水素やイオンになります。この水素がコマのまわりに大きな雲をつくるのですが、その大きさは、1千万km（太陽の直径の8倍くらい）ぐらいになるのではないかと考えられています。この水素がどれだけの量になるか観測することで、親分子の水がどれだけ彗星核から失われるのかがわかるはずです。すると、ハレー彗星が太陽に一度近づくとどれだけやせてしまうのかもわかるでしょう。この外にも彗星のコマから飛び出してくるイオンをとらえる装置などが積みこまれています。すいせいは、昨年の11月に軌道修正し、ハレー彗星に最も近づく距離を15万kmとぐっと近づく軌道に乗りました。

#### アイス（アメリカ）

アイス（ICE）という名は、国際彗星探査機の略称です。もともとは1978年に打ち上げられ、太陽と地球の引力がつり合うラグランジ点を中心にながら太陽風や宇宙線を観測する探査機でした。ところが、アメリカは財政難を理由に、ハレー彗星に探査機を飛ばす計画をすべてやめてしまいました。それでも何とかハレー彗星を

#### アイス（NASA-アメリカ）



観測するためにこの探査機を使うことにしたのです。ただし、この探査機は大きなロケットはついていないため、月の引力で加速するフライバイという高度なワザを使いました。そしてまず、ジャコビニ彗星に近づき、彗星探査一番乗りの称号を手に入れました。その後、ハレー彗星に近づき、3月28日に約3000万kmの所を通過して太陽風の観測をします。

### プラネタリウム案内

#### 「ハレー彗星はなぜ来たか」

ハレー彗星の現在の軌道と、そこに至る生いたちを考えます。

投影日	券発売開始時刻	回	投影開始時刻
土曜日	朝9時より 第1回、第2回の券を同時発売する	第1回	14:00
		第2回	15:00
日曜日	朝9時より 第1回、第2回の券を同時発売する	第1回	11:00
		第2回	14:00
火曜日		学校専用	
水曜・木曜日		学校・団体専用	

- 観覧料 1人 100円
- 所要時間 1回 45分
- 定員 128人
- 団体申込み 20人以上で団体扱いとなり、団体専用日にご利用いただことになります。くわしくは博物館受付にお問い合わせください。
- 乳幼児の観覧はご遠慮ください。



# ○○ 2月の行事 ○○

1	土	プラネタリウム 古文書講読会
2	日	プラネタリウム
3	月	(休館日)
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	プラネタリウム 土曜観察会 石仏を調べる会
9	日	プラネタリウム 自然観察会 地層観察会
10	月	(休館日)
11	火	(休館日)
12	水	
13	木	デッサン教室
14	金	デッサン教室 移動博物館(豊田公民館)
15	土	プラネタリウム 古文書講読会
16	日	プラネタリウム
17	月	(休館日)
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	プラネタリウム 石仏を調べる会 土曜観察会 移動博物館(須賀公民館)
23	日	プラネタリウム 地層観察会
24	月	(休館日)
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	(休館日)

# ★☆行事案内☆★

## ○自然観察会(地質)

足柄層の地層と貝化石について観察します。

日時 3月9日 9~16時 (雨天中止)

場所 山北町塩沢付近

申込み 2月28日までに往復はがきで博物館までお申込み下さい。多数の場合は抽せんで30人までとします。

## ○体験学習「拓本墨を作ろう」

石に刻まれた銘文を、書かれた当時のままに写し取る技法のひとつに拓本があります。拓本墨を自分たちで作り、拓本のとり方を学んでみます。

日時 3月16日(日) 10~15時

材料費 1人500円

申込み 往復はがきで、博物館までお申込み下さい。締切りは、3月10日。多数の場合は抽せんにより15人までとします。

## ●寄贈品コーナー

「竹の民具」(2月1日~2月27日)

塩ザル、マチブッタイ、魚籠、竹のヒャクなど竹でできた民具43点を紹介します。

## ●移動博物館の日程

	豊田本郷遺跡展	平塚の野鳥展	星を見る会
豊田公民館	2.14~2.16		2.15
須賀公民館		2.22~2.23	2.22
神田公民館		3.15~3.16	3.14

